

ハルツ山地からドイツ北部への旅

村上紀子（所沢市）

期 間：2008年8月30日～9月10日（12日間）

今回の旅の主な目的は、街そのものが世界遺産に登録されているゴスラー、魔女伝説で有名なブロッケン山にSLで登ること、1000年の昔から「塩の道」として栄えたリュネブルクとリュベック、それに童話でおなじみのブレーメンなど、ハルツ地方からドイツ北部の小さい街をのんびり訪ねるというものです。

ゴスラー

ドイツの他の地方の木組みの家とは異なり、鉱山で繁栄した歴史を示すようにスレート葺きの家々は重厚で、豪華に装飾はされているものの、しっとりと落ち着いた街並みが続き、今回の旅行中、一番のお気に入りになりました。

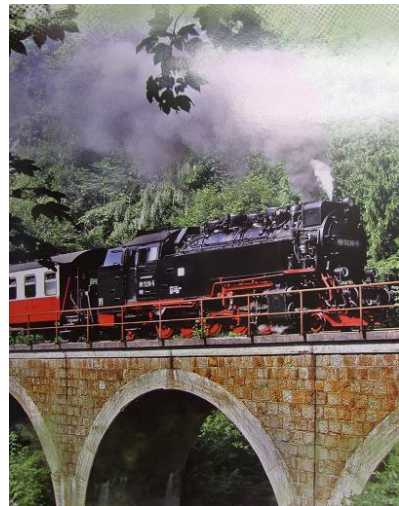


鉱山で栄えたゴスラーの町並み

ヴェルニゲローデからブロッケン山へ

ブロッケン山に登るには、ゴスラーから1時間足らずのヴェルニゲローデがSLの始発駅になります。8時40分発の電車は5両編成でしたが、乗客は10人足らずのガラガラ…「えっ～、こんなんでもいいの？」と思っているうちに、2時間近くの道中、途中駅からお客さんがどんどん乗り込んできました。私たち短期旅行者には想像もつかないことですが、このSLがカバーしているハルツ山地は自然が豊かで、小さな村にのんびり滞在してハイキングなどを楽しむ旅行者がたくさんいるようです。

のんびり、がたがた2時間近くかけて登ったブロッケン山の頂上は、さすが“魔女伝説”と思わせるような荒涼たる風景でした。ゲーテの「ファウスト」にも、この山のことが登場します。



ハルツの狭軌鉄道

風が強く、夏というのに長時間立ってられないほどの寒さで、「ブロッケン現象」として有名な霧があたり一面に立ち込めると、まったく視界がきかなくなり、山自体は1142メートルしかないのですが、周りが平地なせいかさえぎるものが何もなく、旧東ドイツ時代、ここに秘密警察のレーダー基地があったというのうなずけます。

リュネブル

ここは街自体も魅力のあるところですが、私たちはちょうど満開の季節を迎えているエリカの花を見ようと、大原野リュネブルガー・ハイデまでツアーで行くことにしました。

ハイデ内は一般車両乗り入れ禁止、馬車でゴトゴト、一面を覆いつくした赤紫色のエリカの中を進みました。ドイツ人の自然観は日本と随分違って、“あるがまま”をととても大切にしているように思います。お土産屋さんもほとんどなく、まして「エリカせんべい」「エリカ饅頭」などは期待すべくもありませんでした。

ブレーメン

ロバ、犬、猫、ニワトリの登場する「ブレーメンの音楽隊」で有名な街ですが、訪れてみると、なかなかどうして、それだけではないことに気づかされます。実際、ウォーキングツアーのガイドさんも「音楽隊」のことには一切触れず、港町としての歴史、どのようにして水害を克服して発展の基礎を築いたか等を、入り組んだ細い路地を丁寧に回りながら説明してくれました。でも、さすがに「音楽隊」グッズはたくさんあり、比較的マイナーなところばかりを回った後だからでしょうか、とても洗練された小都会といった印象を持ちました。